

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(1号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500565-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。コロナウイルス感染拡大予防に伴い不便なおお掛けしている事が多くありますが、ここでの生活はいつもと変わらず、笑顔が見られ活気あるものとなる様心掛けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「本人がゆったり、自分らしく生活できる」暮らし方を支援することを目指し、職員は、利用者の想いや意向をしっかり把握し、本人が今できる仕事への意欲を辛抱強く見守ることを大切にしている。事業所横の畑での農作物作り、洗濯干し・食事の準備など、入居前からの暮らしが続けられるよう支援し、「ありがとう」の声掛けを心掛けている。事業所内には日々の業務内容を大きく掲示し、職員誰もが同じ支援が出来るように工夫している。運営推進会議は家族の参加が多く、テーマごとに講師を迎えて専門的な勉強会としても利用され、意見交換を行い、利用者へのケアに役立っている。3月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催を続けている。毎年「嗜好調査」を行い、職員が利用者個々の好みを聴き取り、献立作りや行事食作りに役立っている。同じエリアにある同じ法人の5事業所で、定期的に館長会議を開いて情報交換を行い、事業所運営に役立っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活が出来るようにお手伝いしている。	理念の共有のため、毎週朝礼で唱和するほか、事業所内に掲示して、職員の意識を高めている。利用者へのケアについて事業所独自の目標も立てて申し送りノートに記入するなど、目標に対する気づきに日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。お花やお野菜の差し入れ、畑を借り作物を育てる。保育園の運動会への参加、中学生の職場体験、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。	事業所の隣に畑を借りて行う農作業は、利用者のライフワークとなっていて、地域との交流にも役立てられている。近隣スーパーへの買い物や、理髪店との協力のもと2か月に1度散髪の出張サービスも受けており、地域の方との自然な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。いつでも相談に来れる体制作り。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。医療講演の依頼により繋がりが出来看取りを行えるようになった。	2か月に1回、地元市議、民生委員、町内会長、家族、職員が参加して、活発な運営推進会議が開かれている。テーマごとに講師を迎え、専門的な情報を得て、利用者へのケアに役立てている。3月以降のコロナ禍においても、書面開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議への市職員の参加をはじめ、市との繋がりは活発で、市主催の多職種間連絡会議にも積極的に参加している。認知症サポーター活動への協力など、市との連携は密となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けられるような環境を整備している。「座って、待って」等スピーチロックについても職員同士の注意できる関係を構築してきている。	3か月に1回「身体拘束適正化検討委員会」を適正に開催している。身体拘束に関する研修は、年2回、法人の研修計画に組み込まれ、職員全員が受講して「身体拘束0宣言」の実践に役立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化したり研修を行い、職員が虐待防止に関する知識を得るようにし、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいたため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来設した時利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞くような関係性作りを努めている。	家族の運営推進会議への積極的な参加や、月1度の請求書送付の際に、入居者個々に暮らし向きの写真と担当者からの手書き便りを添えて届けている。コロナ禍での面会は、「高齢者施設における感染制御の基本」に沿った方法について、家族への理解と協力をお願いして対処している。	家族との関係は大変良好であるが、運営に関する家族の関与は重要であり、更なる質の向上のために、年1回程度家族への運営に関するアンケート調査を行うことも検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングや、朝礼等を行い、日々の中で気軽に意見や提案が言える機会を設け、個々の意見を、反映できる環境がある。	毎月行う職員会議において、運営に関する職員の意見等を出してもらい情報を共有している。法人本部のエリアマネジャーが毎月、職員会議へ参加し、意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金特別処遇改善加算により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染拡大予防により行われていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要があれば他のサービス等の説明もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。今年度は面会制限をさせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援していたが、面会は制限させて頂いています。	コロナ禍での面会は難しい状況であるが、感染防止について最大限の注意を払いながら、安全な方法で支援に努めている。喜怒哀楽を出せる環境作りに努め、通常であればイベント行事(友人とお花見や流しそうめんなど)を通じて、馴染みの方々との関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、一緒にお茶をしたり歌を唄ったりする中で困っている利用者様を助けている姿も見られたり、元々顔見知りの関係の方も多くいて、地域密着型の良さであります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。退居されたご家族から入居したい方の紹介もあり入居に繋がっている。。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。看取り等の場面でも認知症でわからなくても一緒に暮らす中で本人の思いを図ります。	職員は、利用者の想いや意向をしっかり把握し、本人が今できる仕事への意欲を辛抱強く見守りながら、利用者一人ひとりの生活が継続できるように支援をしている。特に事業所横の畑を借りて行う農作物作りは、入居前からの暮らしぶりにつながり、利用者の想いや希望の把握にも役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時の名前を呼びながらの挨拶時にいつもとは違う変化に気付く事やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや今出来る事を続けていく事を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。今年度はケアプラン会議はご家族は交えずに行っています。	介護計画担当者会議には管理者からの働きかけのもと、家族の積極的な参加があり、介護計画作成に反映することができている。コロナ禍の中では、会議参加だけに頼らず、電話等を利用して家族の意見の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにいかせて頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。近所の畑や駐車場を借りる。いも掘り。地域の店で買い物を。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。地域の保育園との交流、運営推進会議への市議会議員、町内会長、老人会長、民生委員、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。	かかりつけ医との協力のもと、利用者の受診日や受診内容について、事業所内のカレンダーに記載し、職員間の情報共有を図っている。かかりつけ医以外の他科受診については、家族の意向に合わせて、協力しながら支援できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けるようしている。	重度化にむけた取り組みについては、入居時に重要事項説明書をもとに説明を行っている。緊急時の連絡方法を事務所内に掲示して、職員間の情報共有に取り組んでいる。家族の意向を大事にして主治医との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救急救命の講習会を開き再度受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3年前より災害用ポリ袋レシピを使った炊き出し訓練を定期的に行いローリングストック法で食材の確保を行っています。薬の処方も1週間以上前に行っています。地元の消防団との関わり大切に続けていきます。	年2回、地震・火災想定避難訓練を実施している。ローリングストック法で食料の確保を行い、非常時の生活水の確保は事業所の外に設置の貯水槽で賄うこともできる。避難の際の防災ヘルメットは、近隣の中学校で卒業生が使ったものを寄付してもらい、常備することができている。	管理者は、ローリングストック法を利用し、日頃から水・食料の備蓄管理に努めているが、職員誰もが備蓄内容を確認できるように、備品台帳の整備を検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ時持ち物に配慮する。	利用者のプライバシーに関する研修会は、法人本部の年間研修計画に基づき実施されている。特に利用者に対する「タメロ」や「赤ちゃん言葉」の使用など、職員のプライバシー保護の意識の向上について、管理者は普段から都度注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に。日課に沿って生活していくものの出来るだけ利用者に合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。	事業所に隣接する畑を利用して利用者が作物作りに精を出し、収穫した新鮮な野菜を料理に活かしている。利用者は調理から配膳、下膳まで積極的に参加し、利用者自身ができることを大切にして自然に携わっている。年1回「嗜好調査」を行い、行事食や日々の献立作りに役立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し、なるべく布パンツで過ごす事が出来るよう支援している。、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。	普段の生活が布パンツで過ごせるように、「排泄チェック表」を活用して排泄パターンを把握し、職員は情報を共有して対応している。夜間はポータブルトイレ利用者もいるが、昼間は自立してトイレを利用するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳等)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)一人での入浴を希望する方には、ゆっくりと楽しんで頂いている。	入浴時間は13時30分から15時を目安として、週3回の頻度でなるべく少人数で、入浴を楽しんでいただくことを基本としている。利用者の皮膚の状態に配慮して、石鹸の使い方についても注意を払いつつ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝られるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、シーツの洗濯や掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて頂く中に職員からのお礼の言葉にやりがいや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブへ行く等提供する。現在外食、買い物、ドライブは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的にいき本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。現在戸外に出かける支援は行っていない。	事業所の周辺は交通事故の心配が比較的小さく、利用者は毎日散歩を楽しむことができる。誕生日での外食支援や買い物、お参り等、家族との外出も含め支援に努めている。コロナ禍の現状を踏まえ、外出支援を控えているが、散歩・洗濯干し・畑仕事など、外気浴を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族や知人から電話や手紙が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所や食卓の利用者の席も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。	共用空間は、季節感を大事に考え、玄関に飾る花やレイアウトに気づかいながら、暮らしを楽しむ工夫を心掛けている。畑仕事や物干し、布団干し作業の場所も共用空間として捉え、利用者ができる仕事への参加意欲を高める工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。	ベッド・エアコン・クローゼット・洗面台が造り付けられている。朝9時からの掃除の時間には、利用者と共に掃除を行い、清潔感が保たれている。掃除を手伝った利用者に対して職員は、「ありがとう」の感謝の言葉を必ず伝え、利用者自身ができることの継続を心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用したり、椅子で移動の道筋を作ったり、ベットより降りてもリスクの少ないように、マットレスを敷く等し、自立した生活が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(2号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500565-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。コロナウイルス感染拡大予防に伴い不便えお掛けている事が多くありますが、ここでの生活はいつもと変わらず、笑顔が見られ活気あるものとなる様心掛けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活ができるようお手伝いしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。お花やお野菜の差し入れ、畑を借り作物を育てる。保育園の運動会への参加、中学生の職場体験、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。いつでも相談に来れる体制作り。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。医療講演の依頼により繋がりが出来看取りを行えるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備している。「座って、待って」等スピーチロックについても職員同士の注意できる関係を構築してきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化したり研修を行い、職員が虐待防止に関する知識を得るようにし、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいたため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来設した時利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞くような関係性作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングや、朝礼等を行い、日々の中で気軽に意見や提案が言える機会を設け、個々の意見を、反映できる環境がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金特別処遇改善加算により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染拡大予防により行われていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要があれば他のサービス等の説明もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。今年度は面会制限をさせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援していたが、面会は制限させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、一緒にお茶をしたり歌を唄ったりする中で困っている利用者様を助けている姿も見られたり、元々顔見知りの関係の方も多くいて、地域密着型の良さであります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。退居されたご家族から入居したい方の紹介もあり入居に繋がっている。。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。看取り等の場面でも認知症でわからなくても一緒に暮らす中で本人の思いを		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時の名前を呼びながらの挨拶時にいつもとは違う変化に気付く事やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや今出来る事を続けていく事を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。今年度はケアプラン会議はご家族は交えずに行ってます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにかかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。近所の畑や駐車場を借りる。いも掘り。地域の店での買い物。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。地域の保育園との交流、運営推進会議への市議会議員、町内会長、老人会長、民生委員、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え必要時には主治医、家族と話す機会を設けるようしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救命救命の講習会を開き再度受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3年前より災害用ポリ袋レシピを使った炊き出し訓練を定期的に行いローリングストック法で食材の確保地を行っています。薬の処方方も1週間以上前に行っています。地元の消防団との関わり大切に続けていきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ持ち物に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にする。日課に沿って生活していくもの出来るだけ利用者に合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧品も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりし		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し、なるべく布パンツで過ごす事が出来るよう支援している。、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳等)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)一人での入浴を希望する方には、ゆっくりと楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝れるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、シーツの洗濯や掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉にやりがいや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブへ行く等提供する。現在外食、買い物、ドライブは行ってない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的にいき本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。現在戸外に出掛ける支援は行っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族や知人から電話や手紙が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所や食卓の利用者の席も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用したり、椅子で移動の道筋を作ったり、ベットより降りてもリスクの少ないように、マットレスを敷く等し、自立した生活が出来るようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500565		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム磯葉の家(3号館)		
所在地	御前崎市白羽5522番地の5		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500565-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 8 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと利用者様の身体状況、心理状態、生活の様子等を理解し本人がゆったり楽しく自分らしく生活が出来るよう支援していきます。本人や、家族の本人への願いや本施設への要望を大切に、個々プランを実施していきます。本施設での利用者様の状況の連絡を密にし、ご家族に理解して頂くと共に施設とご家族が同一歩調で本人のケアに努めていきます。コロナウイルス感染拡大予防に伴い不便えお掛けている事が多くありますが、ここでの生活はいつもと変わらず、笑顔が見られ活気あるものとなる様心掛けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者も職員も週に1度は理念を唱和し1歩でも理念に近づくように利用者様と地域の中で暮らし続けるを目標にその人らしい生活ができるようお手伝いしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切に暮らすよう努力している。散歩等での近所さんとのあいさつ。お花やお野菜の差し入れ、畑を借り作物を育てる。保育園の運動会への参加、中学生の職場体験、近くの店への買い物。地元の床屋さんによる散髪。お祭りの参加。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の方々に参加して頂き地域に貢献出来ることを相談したり、包括支援センター主催の認知症ケア会議への参加やキャラバンメイトになり認知症サポーターの育成など行っている。いつでも相談に来れる体制作り。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に一度開催し定例のメンバーの他に地域の医療の方や消防署の方に講師に来て頂きそこで出た意見や情報をサービスの向上に役立てている。医療講演の依頼により繋がりが出来看取りを行えるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員の方の参加や市主催の会議や研修に積極的に参加したり連絡を密にし、協力関係を築くようしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、利用者の立場に立ち、安心して介護が受けれるような環境を整備している。「座って、待って」等スピーチロックについても職員同士の注意できる関係を構築してきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止をマニュアル化したり研修を行い、職員が虐待防止に関する知識を得るようにし、職員同士指摘できる関係を作り虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様もいたため管理者や職員は十分理解はしていないまでも個々の関係者についてはある程度は活用でき、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項や改定等の際は十分説明し、利用者や家族の同意を得、且つ不安や疑問点も尋ねるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、家族等が本施設に来設した時利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞くような関係性作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングや、朝礼等を行い、日々の中で気軽に意見や提案が言える機会を設け、個々の意見を、反映できる環境がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金特別処遇改善加算により手当を出し向上心を持って働けるように努めている。ボーナスにも個人評価を行って個々の努力の評価をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修。法人内の研修や法人外の研修についても提示し自由に参加できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染拡大予防により行われていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で本人の生活歴や要望や思いを聞いたりさぐったりして本人の安心出来るサービスを提供する。入居後さらに関係を築き思いや要望の変更等速やかに対応していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階で家族の困っていることや、不安な思いをゆっくり聞くことで、安心できるような関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接や情報等で、必要な支援である事を見極めサービスを利用して頂く。必要があれば他のサービス等の説明もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭で生活。を念頭に利用者の暮らしを考え、もし自分が利用者の立場だったらという思いで、時には家族になったつもりで接する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思い、要望を家族と職員が共通理解をし、同一歩調で本人を支援していく。面会のすすめ、家族と過ごす時間が持てるを勧める、面会時に居室にて、水入らずの時間を過ごして頂く。今年度は面会制限をさせて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最低でも月に1度は請求書を取りに来て利用者様と会って頂けるようお願いし馴染みの関係を続けられるよう支援していたが、面会は制限させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や、食事作り、等の作業時にはなるべく多くの利用者が参加でき交流できるようにしたり、一緒にお茶をしたり歌を唄ったりする中で困っている利用者様を助けている姿も見られたり、元々顔見知りの関係の方も多くいて、地域密着型の良さであります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の本人の動向について家族にお聞きして連絡を取っていく。退居後もご家族から連絡を頂いたり、訪問も頂いている。退居されたご家族から入居したい方の紹介もあり入居に繋がっている。。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に思いや希望を伝えることができるよう、一緒に家事や入浴する中で本人の思いや意向等を把握し本人の希望に沿うよう支援していく。特に散歩時に職員と1対1になった時にさみしい気持ちなどを話して下さる事が多いです。必要に応じ家族と連絡相談していく。看取り等の場面でも認知症でわからなくても一緒に暮らす中で本人の思いを		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報の提供を頂いたり、日々の生活の中で本人やご家族等より傾聴し、新たな情報等は、必要に応じ記録し共有し職員で把握していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時の名前を呼びながらの挨拶時にいつもとは違う変化に気付く事やバイタル測定時心身状態を見極める。声掛けをし外気浴や散歩に出掛ける。得意なことや今出来る事を続けていく事を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートを職員と話し合い、意見を求めた上でケアプランを作成し担当者会議には本人、ご家族の参加もあり、本人ご家族担当職員の意見を反映した介護計画作成をつくるようにしている。今年度はケアプラン会議はご家族は交えずに行ってます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランの目標について毎日記録し、目標が達成できるよう職員間で共有しながら、ケアプランの見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスは利用していないが近隣のグループホームのイベントに参加したり、遊びにかかして頂いている。本人の状態によっては系列のケアセンター等の紹介も行っている。施設からの毎月の本人の様子等をお知らせする手紙等にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。近所の畑や駐車場を借りる。いも掘り。地域の店での買い物。散歩時の近隣の方との交流。中学生の職場体験。地域の保育園との交流、運営推進会議への市議会議員、町内会長、老人会長、民生委員、市役所職員の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談、受診出来る協力医院があり、受診、受薬、検査、往診、予防接種等適切な医療が受けられている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来ている、その時介護記録や病院受診記録の把握や実際の手当てや爪水虫、巻爪の処置、耳掃除等を行い。職員の医療に関する質問にもその都度、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中精神の安定が図れるように、担当者が定期的に病院に足を運んだり病院との情報交換に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来ることは家族、主治医に協力を得、支援するよう取り組む。個人記録をもとに本人の状態を正確に家族に伝え、必要時には主治医、家族と話す機会を設けるようしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習をほとんどの職員が受講しているが緊急時の実践力を職員全員が身に付けていない。運営推進会議の中でも救命救命の講習会を開き再度受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3年前より災害用ポリ袋レシピを使った炊き出し訓練を定期的に行いローリングストック法で食材の確保地を行っています。薬の処方方も1週間以上前に行っています。地元の消防団との関わり大切に続けていきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れる。訪室時やトイレ持ち物に配慮する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に常に耳を傾け本人が満足できるように対応するよう心掛ける。いくつかの選択しを出すことで自己決定がスムーズに出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にする。日課に沿って生活していくものの出来るだけ利用者に合わせて対応していく。自由に楽しめる為の環境作り。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が二か月に一度の散髪を楽しみにしている。馴染みの美容院へ行かれる方もいる。入浴や洗濯、洋服のコーディネート相談や、個々には化粧品も楽しんでいる。ボタンが取れていたりほつれがある時は裁縫が得意な利用者様が直したりし		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い好みの料理の提供や利用者と共に米とぎ、盛り付け、お茶つぎ、味噌汁作り等一人ひとりの出来る力を見極めながら準備したり、今まで使用していた食器を使用したり、盛り付け等も工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、水分量については、毎日記録している。配分量や形態等は個々に応じて配慮している。栄養バランスはカロリーの計算等はしていない為きっちり出来ていないが野菜、肉、魚等のバランスよく作られている。水分量は1日1500CCをほぼ達成。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けその方に必要な口腔ケアを実施している。夜間は義歯は預かり洗浄液にて消毒する等本人の状態に合わせたケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員排泄表を記入し排泄のパターンを把握し、なるべく布パンツで過ごす事が出来るよう支援している。、トイレで排泄に向けてトイレ誘導、声掛けを実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のない方は、水分一日1500CC以上と食材の工夫(牛乳等)、散歩等で自然排便できるよう取り組んでいるが薬での排泄を促す事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各自の希望に沿った時間に入って頂くようにはできていない。少人数で入浴をゆたったりと楽しんで頂いている。(週3回)一人での入浴を希望する方には、ゆっくりと楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベット、布団で寝られるようにしている。居室で自由に休んだり、気持ち良く眠れるよう干したり、シーツの洗濯や掃除、ベットメイクもする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用、服用の仕方、注意事項を理解する。服薬時には日付、氏名、を確認、反復し服用するまで見届ける。常に本人の状態を把握し、年1回の検査を行うや服用薬の見直し等必要に応じて主治医に相談していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や食事準備などの役割を本人の希望や能力に合わせて行って頂く中に職員からのお礼の言葉にやりがいや喜びを感じて頂く。本人の楽しめるリクレーションや趣味、買い物、外食、ドライブへ行く等提供する。現在外食、買い物、ドライブは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、おまいり、行事等の参加など積極的にいき本人の楽しみを増やす。家族との外出や、食事など家族と過ごす時間が持てる為の支援もしている。現在戸外に出掛ける支援は行っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい時に買いたいものが買えるように本人家族と相談しながら預かっているお金を使用している。所持に拘る利用者には少額のお金を家族と相談の上持って頂いており、状況は常に把握している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人のご希望で電話を掛けたり、ご家族や知人から電話や手紙が来たりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心・安全な環境を第一に考えながら、ソファの位置やその他の家具の置き場所や食卓の利用者の席も職員で相談しながら決めている。玄関にも季節の花を置いたり、ベンチを置くなど季節や、生活感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でひとりで過ごされたり、ホールが団欒の場となり、ソファや椅子で談話等が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やTV、衣類、寝具などを持ってきて頂くようにしている。お花、人形、ぬいぐるみ、本、写真など本人の趣味や楽しみの持てる部屋に工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者の状態によりシルバーカーや歩行器等を使用したり、椅子で移動の道筋を作ったり、ベットより降りてもリスクの少ないように、マットレスを敷く等し、自立した生活が出来るようになっている。		